

来青花

永井荷風

青空文庫

藤山吹の花早くも散りて、新樹のかげ忽ち小暗く、盛久しき躑躅の花の色も稍うつろ
 ひ行く時、松のみどりの長くのびて、金色の花粉風来れば烟の如く飛びまがふ。月正に
 五月に入つて旬日を経たる頃なり。もし花卉を愛する人のたまく、わが廃宅に訪来るこ
 とあらんか、蝶影片々たる閑庭異様なる花香の脉々として漂へるを知るべし。而して
 其香氣は梅花梨花の高淡なるにあらず、丁香薔薇の清涼なるにもあらず、将又百合
 の香の重く悩ましきにも似ざれば、人或はこれを以て隣家の厨に林檎を焼き蜂蜜を煮詰む
 る匂の漏来るものとなすべし。此れ便先考來青山人往年滬上より携へ帰られし江南
 の一奇花、わが初夏の清風に乘じて盛に甘味を帶びたる香氣を放てるなり。初め鉢植にて
 ありしを地に下してより俄に繁茂し、二十年の今日既に來青閣の檐辺に達して秋暑の
 夕よく斜陽の窓を射るを遮るに至れり。常磐木にてその葉は楠木に似たり。園丁これを才
 ガタマの木と呼べどもわれ未だガタマなるものを知らねば、一日座右にありし萩の家先
 生が辞典を見しに古今集三木の一古語にして實物不詳とあり。然れば園丁の云ふところ
 亦遽に信ずるに足らず。余屢先考の詩稿を反復すれども詠吟いまだ一首としてこの花に及
 べるものを見ず。母に問ふと雖また其の名を知るによしなし。此に於てわれ自ら名づくる

に來青花の三字を以てしたり。五月薰風簾を動し、門外しきりに苗壳の声も長閑によび行くあり。満庭の樹影青苔の上によこたはりて清夏の逸興遽に来るを覚ゆる時、われ年々來青花のほとりに先考所藏の唐本を曝して誦讀日の傾くを忘る。來青花その大き桃花の如く六瓣にして、其の色は黄ならず白ならず恰も琢磨したる象牙の如し。而して花瓣の肉甚厚く、灰に臙脂の隈取をなせるは正に佳人の爪紅を施したるに譬ふべし。花心だいにして七菊花の形をなし、臙脂の色濃く紫にまがふ。一花落つれば、一花開き、五月を過ぎて六月霖雨の候に入り花始めて尽く。われ此の花に相對して馥郁たる其の香風のうちに坐するや、秦淮秣陵の詩歌おのづから胸中に浮来るを覚ゆ。今試に菩提樹の花を見てよく北欧の牧野田家の光景を想像し、橄欖樹の花に南欧海岸の風光を思ひ、リラの花香に巴里庭園の美を眼前に彷彿たらしむることを得べしとせんか。月の夜萩と芭の影おのづから墨絵の模様を地に描けるを見ば、誰かわが詩歌俗曲の洒脱なる風致に思到らざらんや。われ茉莉素馨の花と而してこの來青花に対すれば必先考日夜愛讀せし所の中華の詩歌樂府艷史の類を想起せんばあらざるなり。先考の深く中華の文物を懽慕せらるゝや、南船北馬その遊跡十八省に遍くして猶足れりとせず、遙に異郷の花木を携歸りてこれを故園に移し植ゑ、悠々として余生を楽しみたまひき。物一度愛すれば正に進んで

此の如くならざる可からず。三昧の境きやうに入るといふもの即ちこれなり。われ省みてわが疎そ懶らんの性遂にこゝに至ること能はざるを愧づ。

青空文庫情報

底本：「日本の名隨筆1 花」作品社

1983（昭和58）年2月25日第1刷発行

2001（平成13）年3月20日第29刷発行

底本の親本：「荷風全集 第一四巻」岩波書店

1963（昭和38）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年11月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) に作成されました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆様です。

来青花

永井荷風

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>